

さわやか

令和2年7月1日発行

校長 酒井 紀幸



学校が再開し、1か月となりました。新しいスタートで抱いていた新鮮な気持ちや真剣に取り組む姿勢はどうでしょうか。今年度の生徒会目標は、「夢現(むげん)」です。「夢を現実にするために一生懸命に頑張ること」と「一人一人の可能性は無限である」という意味を込めてこの目標が決まりました。この1か月の満足度や達成度は一人一人違うと思いますが、自分の成長の足跡をしっかりと評価し、1学期後半を一步一步確実に歩んでほしいと思います。

自己有用感・自己肯定感は未来を拓く力

「自己肯定感」とは、自分には良いところがあると自分自身を肯定的に評価する気持ちです。また、「自己有用感」とは、他人の役に立った、他人に喜んでもらったなど他者からの感謝を強く感じたことで抱く感情です。その意味では、自分に対する他者からの評価が中心の「自己有用感」の獲得が「自己肯定感」の獲得につながります。

たとえば、「自分(Aさん)は、学級で絵を一番上手に描ける」という長所(特技)だけでは、自己有用感にはつながっていきません。しかしながら、Aさんはすぐに帰宅して宿題を終わらせようと思いましたが、Bさんから「Aさんは絵が上手だから、運動会団旗の絵を描くのを手伝って」とお願いされ、手伝いました。その結果、学級のみんなから「Aさんは、絵が上手だね。お陰で、すばらしい学級の団旗ができたと思う。ありがとう。」と言われました。このようにAさんが団旗の絵を頑張って描いたこと(頑張り・努力)、みんなから褒められたり認められたりすること(有用感)、そしてAさんの絵が上手だということ(長所)の3つが相重なり、未来を拓く力となるのではないのでしょうか。

生徒アンケートから、「自分には良いところがある」と回答している生徒(現2・3年生)は、86.7%います。自己肯定感が高い生徒が多いことから、自分の長所(特技)と頑張り、有用感が合わさる好循環があるものと思います。

そして、一人一人の生徒が、長所(特技)をどのように頑張り、アウトプットするか。そして他者の評価をキャッチしていくかが大切です。

【長所(特技)】

- ・絵が得意 ・〇〇の使い方が上手
- ・文章を書くのが上手 ・誰とでも仲良く話せるなど

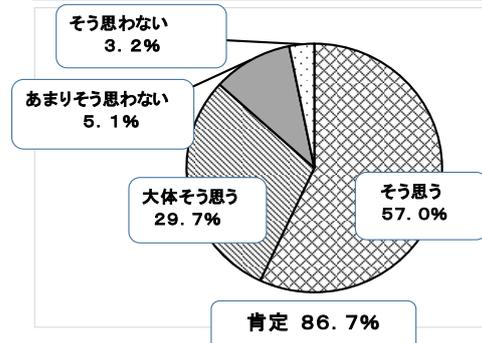
【頑張り】

- ・頑張ろうとする
- ・「いつ」「どこで」「誰に」「どのように」頑張りを出すのか

【有用感をキャッチする】

- ・褒めてもらったことを素直に喜ぶ(受け入れる)
- ・頑張ったことが認められなくても落ち込まない(頑張ったことを自分で評価する)

自分には、良いところがあると思う(現2,3年生)



【子供に有用感を与える豆知識】 ~子供の頑張り、基準で褒める~

子供が「認めてもらいたい」ときというのは、一般に子供の基準や水準で「褒められたい」のではないのでしょうか。子供なりのこだわりで努力したり工夫したりしたことを「認められたい」のです。だから、大人の考えた基準に達していなくても「褒めてほしい」と考えたり、おとなの考えた水準に到達して「褒められた」場合でさえ、大人の基準とは異なる子供の基準でも「褒めてほしい」と考えたりするわけです。

「生徒指導リーフ 『自尊感情』?それとも『有用感』 Leaf.18」

(国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター) より



7月の生活・学習目標

生活目標 「時間のけじめと、思いやりのある行動をとろう」

今月の生活目標は、「時間のけじめと、思いやりのある行動をとろう」です。

休み時間に次の授業の準備をして休憩に入ることや、ベル学を行うことの大切さをはじめとした授業面ではもちろんのこと、部活動や、今後行われる校外活動においても「時間を守ること」、「与えられた時間を大切にすること」を意識しながら、それぞれの目標を達成してくれることを期待します。

学習目標 「素敵な聴き方・話し方を身につけよう」

<聴く>…うなずきながら、顔を見て

1. 静かに最後まで聴こう
2. 話す人の方を見て聴こう（うなずきながら 顔を見て 体の向き）
3. 自分の考えと比べて聴こう（同じなのか 似ているのか 違うのか）



<話す>…理由をあげて、はっきりと

3ポイント発言(結論先行の発言)を意識して

1. 適切な大きさの声で話そう（ペア、グループ、全体）
2. 理由をあげて話そう（「はい、…です。なぜならば…だからです。」）
3. 比べて話そう

（「～さんと同じで…です。」「～さんと違って…です。」「～さんにつけ加えて…です。」）

自分の考えを分かりやすく説得力を持たせて表現する力を培うことを目的に、先日、言語技術トレーニングを行いました。3ポイント発言を基礎として身に付けた技能を、授業をはじめ、日常生活の中でも活用できることを期待します。

道徳教育について

今年も各学年の「道徳の木」を作って、掲示します。1年間で花が全て実るよう、22のテーマについて計画的に道徳の授業を進めていきます。実際には生徒が道徳の授業で感じたことや、思ったことが書かれます。

どのテーマも大事なことばかりですが、一例として、将来のために「望ましい生活習慣」を早めに築いていってほしい。「思いやり」を持って級友や先輩後輩と接し、美しい人間関係を築いてほしい。チーム高松として一人一人が自覚を持ち、学校や仲間のために行動できる人になってほしいという願いを込めて、「ともに生きる社会」にも力を入れています。

コロナ禍をはじめ、社会で様々な痛ましい事件が起こっているこの時代だからこそ、道徳の授業は大切だと考えています。生徒たちが様々な価値に触れるよう授業をしていきます。

今まで以上に、さらに温かい「道徳の木」が実ることを期待しています。今後、学校公開などでお越しの際には、是非各学年の掲示をご覧になってください。

